

Principal Correspondence

レジリエンスについて

リリーベール小学校では公立の教育と異なり「皆平等主義」は取りません。適度の競争と挫折は、その子の心を鍛える上で大事なことだと考えています。

オーディションなどで「選ばれなかった子がかわいそう」だといって、結果いつも平等になるような環境で育ち、世の中の猛烈な競争社会に出た途端に、引きこもってしまうというのは困ります。現在、小学生から成人までの引きこもりは全国で70万人とも言われています。



また「自己肯定感を高めることが大事」といって叱られたことのない子、誉められてばかり育った子に、妙にプライドだけ高く、自分に反省を返さない自己チュー？が多いことも困ったものです（榎本博明著 ほめると子どもはダメになる 新潮新書）。思いやりに欠ける人はこのタイプと言われます。

「レジリエンス」とは、強いストレス状況下に置かれても健康状態を維持できる性質、逆境を乗り越える力の事を言います。人生は思い通りにならないことの連続であり、逆境に負けない力を付けることが肝心。レジリエンスを高めるには無菌室の様な過保護な生活空間で育つのではなく適度な挫折を繰り返し経験することが必要です。そうすれば筋トレのように心が鍛えられていくのです。



とはいえ、ここは小学校ですから「弱肉強食」ではなく、教師の管理化の下で一定の環境条件とルールの中で競い合わせることが大事です（単なるルールなき競い合いは、いじめになる可能性があります）。具体的には学習（各種検定や、英語のスピーチコンテストなど）は勿論、演劇のオーディション、走力のタイムによる選抜リレー、運動会やマラソン大会のハウスでの競争、合唱のオーディション、学級長、ハウスリーダー、クラブキャプテン、委員会委員長の選挙などなど、競い合いと小さな挫折を繰り返すことによって心が鍛えられていきます。

たとえリーダーに選ばれることが無くとも、人生のリベンジの機会はいくらでもあります。目立たなかった子が、中学、高校でリーダーとして活躍している例は枚挙に暇が無く、水戸周辺の私立中学校の級長は、リリーベール小学校卒業の子どもたちが多く頑張っていると言う話が、それを物語っています。

校訓がただのお飾りにならぬよう、今後も「自立・創造・リーダーシップ」を求めて精進する覚悟です。

Principal Correspondence

茨城の教育も変わります

大きく変わる教育環境・・・でもあせらずたゆまず

茨城県では、2021年度から水戸第一高等学校を始めとし、常陸太田市の太田一高など県内10の高校に中学校を併設し中高一貫校を整備する計画です。再来年の話です。

中高一貫校は既に県立では3校、日立一高、並木中等学校、古河中等学校があり、私立でも茨城キリスト、茨城中高、智学館、常総学院、清真学園、茗溪学園、土浦日大、江戸川学園等があります。今後中高一貫校は公立私立あわせて20校を超え、時代をあげて中高一貫教育の時代となり、ご両親の世代の教育環境と大きく変わる節目の時期となるでしょう。

こうした中で大事なことは、お子さんがしっかりとした夢を持って、それに向かって努力し、あせらずたゆまず努力する姿勢です。

人の幸せの条件は、愛情溢れた環境（家庭・友人・職場・サークルなど）に囲まれて、自分の得意な仕事をする（他に比較して自分が優位なことで食べていける）ことだと言われます。学童保育（アフタースクールクラブ）はただ「預かってもらえる」「便利だから行く」という場ではなく、友達をつくり、好きなこと、得意なことを見つける場になるよう貢献したいと思います。

5月は新しい御世になり、気持ちも一新。新緑のまぶしい季節です。子どもたちの生命力がさらに光るような、楽しい場を心がけて参ります。

ところでリリーでは水戸市の青柳体育館を「リリーアリーナ MITO」のネーミングライツを取得しました。4月から国体の会場として使われますが、今後は学童クラスの対抗スポーツ大会など様々な学園のスポーツ活動に利用して参りたいと思います。

